



〔海の状況 (12/16~1/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 12月中は神子平年よりやや高め(平年差0.5℃~1.0℃)~はなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移したが、1月中は平年並み(平年差±0.5℃)~やや低め(平年差-0.5℃~-1.0℃)で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 12月中は概ね平年並み(平年差±0.5℃)~かなり低め(平年差-1.0℃~-1.5℃)で推移したが、1月中は概ね平年並み(平年差±0.5℃)~はなはだ低め(平年差-1.5℃~)で推移した。(図2)

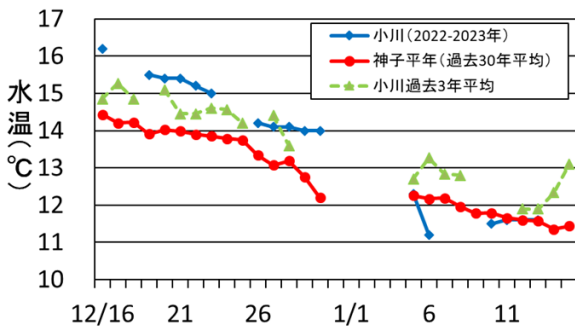


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

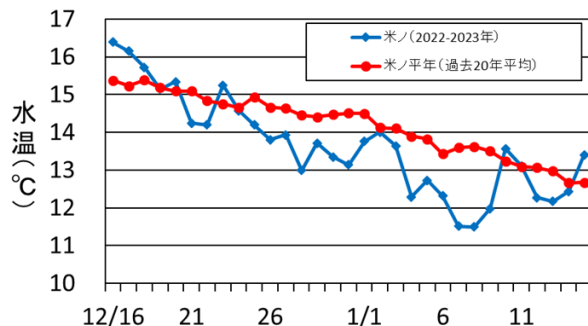


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

〔若狭湾および周辺海域の海況：12月〕

12月の若狭湾周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、18℃~20℃の範囲が大きくなっていった。水深50mでは、若狭湾沖で18℃~20℃の範囲が大きくなっていった。水深100mでは、若狭湾北西沖で12℃~14℃の冷水塊が確認された。水深200mでは、4℃~6℃の範囲が大きくなっていった。(図3)

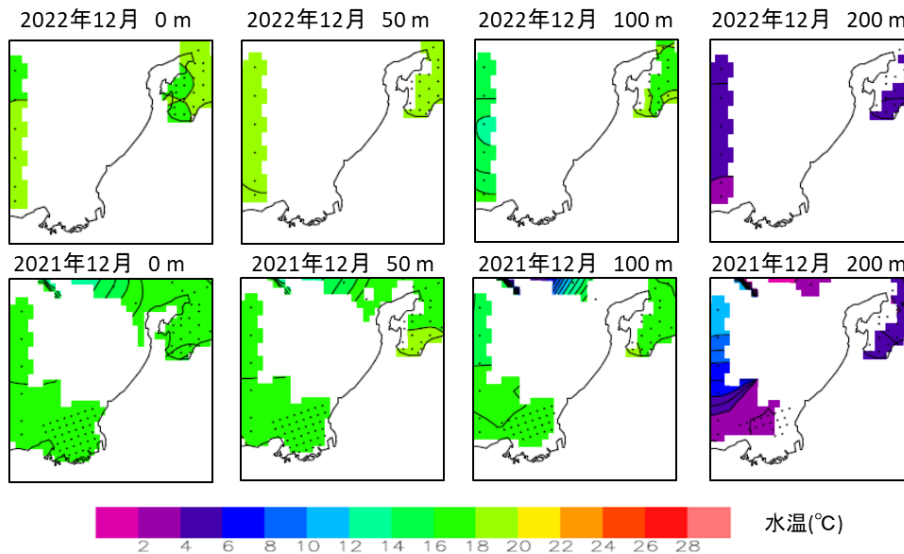


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

「越前がに」の漁模様

12月の「越前がに」漁模様をお知らせします。

○期間中の操業延日数は406日(前年:428日)で、操業隻数は55隻(前年:62隻)でした。

○漁獲量は、ズワイガニ(雄ガニ)は17t(前年:19t 対前年比:89%)と前年を下回りましたが、セイコガニ(雌ガニ)は23t(前年:13t、対前年比:179%)と前年を上回りました。

○1kgあたりの単価は、ズワイガニは21,905円(前年:19,478円 対前年比:112%)、セイコガニは5,469円(前年:4,345円 対前年比:126%)と前年を上回りました。

漁獲量等のデータは福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。(漁業管理グループ 松宮 由太佳)

〔県内の漁模様：12月〕

2022年12月の県内の総漁獲量は340tで、前年同月(511t)を171t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は210tで、前年同月を185t下回った。ツバス銘柄、アオリイカ、シイラは上回ったが、ブリ銘柄、サワラは大きく下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は106tで、前年同月を26t上回った。ズワイガニ〔メス〕、アカエビ、カマスは上回ったが、タコ類、ズワイガニ〔オス〕は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は24tで、前年同月を11t下回った。アマダイ、タコ類が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(12月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
アジ類	27,266	24,992	27,331	2,274	-65	ヤリイカ	1,164	747	2,246	417	-1,082
サバ類	1,120	872	3,375	248	-2,255	タコ類	1,037	1,580	4,198	-544	-3,162
マグロ類	477	712	4,426	-235	-3,949	ズワイガニ〔オス〕	17,119	19,525	39,591	-2,406	-22,472
カツオ類	997	7,347	32,079	-6,350	-31,082	ズワイガニ〔メス〕	22,764	12,771	20,839	9,993	1,925
ブリ類	65,292	117,383	131,477	-52,091	-66,185	アカエビ	11,397	3,296	13,716	8,101	-2,319
(ブリ)	47,520	100,662	30,825	-53,142	16,696	その他エビ	3,888	1,996	4,858	1,892	-970
(ワラサ)	5,323	6,331	8,339	-1,008	-3,016	その他	12,907	14,073	38,597	-1,167	-25,691
(ハマチ)	1,331	4,111	11,741	-2,780	-10,410	合 計	106,217	80,028	214,542	26,189	-108,325
(ツバス)	11,117	6,279	80,555	4,838	-69,438						
ヒラマサ	2,331	3,200	16,144	-869	-13,813						
シイラ	4,355	2,769	15,556	1,586	-11,201						
サワラ	56,736	195,609	189,479	-138,873	-132,742						
マダイ	2,533	3,109	6,432	-576	-3,899						
その他タイ	2,396	1,957	1,374	438	1,021						
スズキ	8,530	8,526	11,120	4	-2,590						
ヒラメ	961	922	2,505	40	-1,544						
カマス	624	382	2,996	243	-2,372						
フグ類	549	371	451	178	99						
アオリイカ	7,981	5,898	6,645	2,083	1,337						
ソデイカ	1,202	1,668	12,233	-466	-11,031						
その他	26,390	19,496	36,031	6,894	-9,642						
合 計	209,740	395,213	499,656	-185,472	-289,915						

釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
ブリ類	3,110	3,123	9,564	-13	-6,454
(ブリ)	31	49	187	-18	-156
(ワラサ)	710	382	480	328	230
(ハマチ)	1,285	805	4,046	480	-2,762
(ツバス)	1,085	1,887	4,851	-803	-3,767
キダイ	2,074	3,872	4,799	-1,798	-2,725
アマダイ	2,282	4,434	6,757	-2,152	-4,475
スズキ	817	649	856	167	-39
メバル類	536	908	1,073	-372	-536
アオリイカ	779	493	610	286	169
タコ類	1,635	3,887	4,347	-2,252	-2,712
サザエ	564	1,258	1,584	-694	-1,019
アワビ	465	857	659	-391	-193
ナマコ類	2,129	2,297	3,705	-167	-1,575
その他	6,537	10,358	15,234	-3,821	-8,697
合 計	24,039	35,259	58,751	-11,220	-34,712

全漁法 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
合 計	339,996	510,500	772,948	-170,504	-432,952

※1 平年の値は2012-2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。ズワイガニ漁獲量は集計方法の違いにより福井県底曳網漁業協会と異なる場合があります。

※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県:12月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府:12月にJF京都魚連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県:12月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県:12月中旬～1月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…カタクチイワシ11.8t、ブリ5.9t、サバ類1.5t、アオリイカ1.3t、シイラ1.3t、サワラ類1.3t

京都府…定置網…ブリ類6.1t、サワラ類2.8t、マアジ1.8t、メジナ1.1t、スズキ0.98t、アオリイカ0.95t

兵庫県…定置網…スズキ191kg、ツバス27kg、サワラ14kg、ハマチ13kg、マアジ7.9kg、マグロ7.9kg

鳥取県…まき網…マサバ24.1t、ブリ類7.8t、ウルメイワシ2.6t、マアジ0.4t

薬草の養殖飼料としての有効利用に関する研究

ふくい水産振興センターが、高浜町、福井県立大学と共同で行っている、「ハーバルフィッシュプロジェクト」について紹介します。

<はじめに>

令和4年度より、高浜町が中心となって、「ハーバルフィッシュプロジェクト」が始まりました。これは、町内で収穫される薬草（シソ）の加工残渣等を養殖飼料に用いて新たなブランド魚（ハーバルフィッシュ）を創出しようという計画です。そのなかで、ふくい水産振興センターは福井県立大学と共同で、マハタ養殖飼料としてシソ添加の有効性を検討する研究を行っています。役割としては、ふくい水産振興センターでマハタの給餌試験を行い、その後、福井県立大学で成分分析（香气成分、脂肪酸組成、アミノ酸組成等）を行うという分担です。

<令和4年度試験について>

令和4年度は、約1か月間の試験を2回(7/22~9/7・11/24~12/22)行いました。第一次試験では、MP（生餌と配合飼料を混ぜたもの）に葉・茎の粉末を1,2,4%の濃度でそれぞれ添加した飼料を与えました。しかし、高水温やハダムシの影響でマハタの活性が悪くなり、摂餌量が減少したことで、マハタは試験期間中に痩せてしまいました。第二次試験では、MPに茎の粉末を1,2,4%の濃度でそれぞれ添加した飼料を与えました。なお、ハダムシ対策として、薬浴を行ったうえで試験を開始しました。そのかいあってか餌食いも良く、どの試験区も体重が増加しました(図1)。試験区間で体重に有意な差はみられなかったことから、シソ添加による摂餌の忌避および誘因ともに認められませんでした。

成分分析については、現在、福井県立大学にて魚肉や血液の分析が行われています。先日、シソ添加飼料を摂餌したマハタの血液を分析したところ、血中コレステロール値が減少していることが判明しました。シソ添加による影響のひとつといえますが、これがどのようにマハタに作用するかはまだ不明です。



写真1 シソ添加飼料

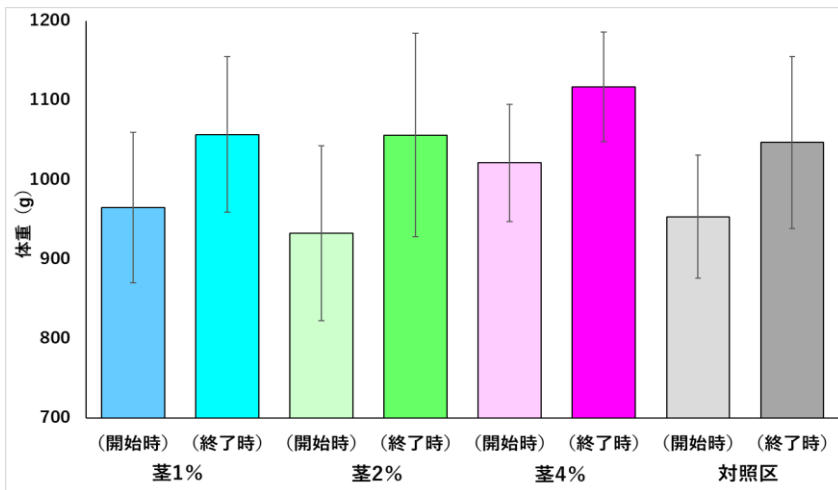


図1 第二次試験での体重変化



写真2 血液採取の様子

<令和5年度試験について>

令和5年度は養殖現場で実際にシソ添加飼料を使用することを見据え、固形飼料にシソ粉末を展着する方法で作成し、給餌試験・成分分析を行います。ふくい水産振興センターでは、ハーバルフィッシュブランドの創出に向け、今後も共同研究を続けていきます。

(企画・先端研究室 青木)